

# カリフォルニア稲作便り

## 来年の計画のために今年の反省を、今年の実績のために調査・分析・データの蓄積を

今年の収穫は終わりましたが収穫量が期待より低かったのがっかりしています。

まだ統計数字は発表されていませんが、田んぼ感覚ではエーカー当たり75cwt (1cwt=50kg) 10a当たり乾燥モミ840kg 程度が平均になるのかなという感じで、平年はだいたい85cwtです。10%以上ダウンしてしまったわけで、とても大きな打撃になります。

### ●反収が価格に反映しない

反収が減ったら流通がタイトになって販売価格は高騰するのではと思いますが、残念ながら簡単にそうはなりません。今年はずり面積が対前年比で13%ほど増加していますので、10%の反収ダウンでも総生産量は昨年よりも多くなっています。また、世界的には穀物の需給がタイトになっているのですが、カリフォルニア米の価格は決して上昇していません。逆にここ数年間の高値が少しずつ調整され、更に低い処に向かっているように見えます。

生産者の販売価格はだいたい作付けの前に契約していますが、最近販売会社の販売利益に応じて生産者にモミ代金が支払われる仕組みの「プール清算払い」契約が多くとられています。これはベース（最低価格のもの）は設定してあるのですが、生産者はそこからどれだけ上乗せをもらえるかを期待しながら生産しています。つまりモミの買い手である精米業者や農業協同組合がそのコメを高く売り、どれだけ利益を出したかによって、生産者の利益も左右されることになりました。今年のコメがどのように売れるかは、これから

の各社の販売活動にかかっているのですが、あまり大きな期待は持てないような雰囲気です。私のところの生産も大きく期待がはずれてがっかりしています。

### ●苗立ち数の減少

さて反収が上がらなかった原因ですが、一つには播種時期の降雨による副作用とも言える現象が影響したことです。

水田に10〜15cmの水を溜めてから播かれた種は、水の中で発芽・発根と生育して行きますが、生育時の水の深さによって最終的な苗立ち数が決定されます。

種の水中に潜っていることのできる期間は限られており、本葉の展開が始まる頃には水上に出ていることが生育を良くする条件になります。

そのためには播種後一週間程度で落水し、苗立ちを良くしてから再度水を入れる方法が多くとられるようになってきました。

この時期、本来であれば播種前に入れられた水は播種後徐々に減少し、一週間程度は水の移動を止めて水温を確保し、苗の成長を助けることになっています。しかし今年はこの時期に50mmを超える雨が降り、そのまま水位が上昇してしまい、発芽はしても水の中で腐ってしまったものが多く発生してしまいました。

単純に水位を下げれば良かったわけですが、初期の水田に使用する除草剤は約3週間排水することが禁止されており、我々は除草剤の効果を最大限にするために水を深めに溜め、補給のための水の移動を最小限にするようにしています。これが



たまき・いちろう / 1952年12月 郡山市生まれ。中学卒業と同時に就農。自作地の他、地域の作業受託を行なった後、89年渡米。カリフォルニア州で稲作（約80ha）を開始。タマキ・ファームス・ジャパン 045-781-6426

今年の結果を悪くしてしまいました。苗立ち数の少ないことが予想外に収穫量を減らした原因の一つです。

### ●雑草による被害

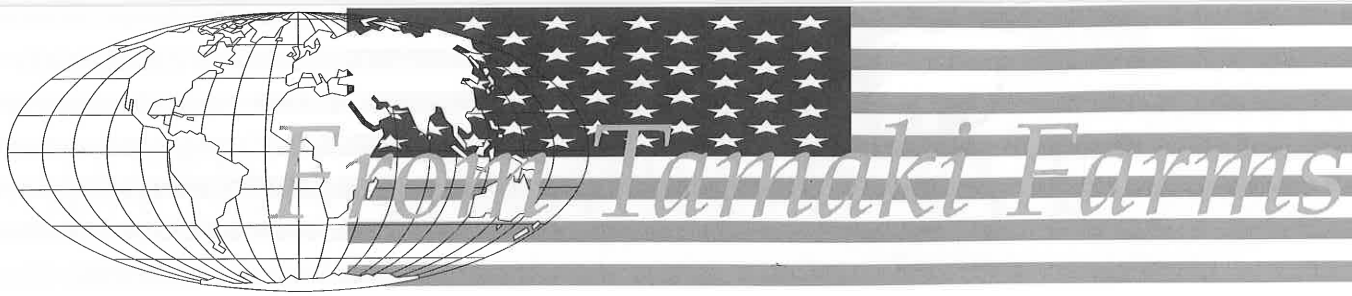
苗立ちの良くない水田は浅水と中干しを繰り返すこととなります。残っている稲を助け、分けつを増やし莖数を確保すべく努力するのですが、同時に雑草の発生も盛んになります。

通常は後期除草剤を散布して防ぐのですが、この使用にも今年に変化があり、事実、有効なものを使えない事態になりました。雑草に水田を占拠された状態になったものもあります。

この後期除草剤が使えない事態といえますのは、以前から果樹園の近くでは木の葉を枯らしてしまう除草剤が使えなかったのですが、今年は綿花の作付け面積が増加し、綿花に悪影響を及ぼすため、一部の除草剤が使用できなくなりました。

除草剤の選択の幅がどんどん狭くなり、結果として高価な除草剤の使用を余儀なくされ、しかも量的・時期的な制約から、散布しても期待したような効果が得られない結果が見られました。

雑草のはびこった水田での稲は、栄養不足や雑草が覆いかぶさることによる倒伏など、何も良いことはありません。



## ●高温・高湿度による障害

北カリフォルニアは例年にならない暑さを経験しました。

私の所でも最高・最低気温を記録しているのですが、今年は6月1日に40度を超えてから8月23日までの84日間中の59日が40度を超えました。

例年だと最低気温が低く、低温による不稔がおこり、登熟歩合を下げて反収を落とす原因になるのですが、今年は逆にこの高温による障害で受粉の障害が出たと言われております。

稲の生育に影響を与えたとと思われる天候の異常はもう一つあります。

湿度が高かった事で、連日のテレビニュースの中の天気予報担当者も「湿度が高く蒸し暑い」と何度も表現していました。こちらでは蒸し暑いと表現されても雨が降るわけでもなく、カラッとしていたと感じました（今年は5月17日に雨が降りてから、9月12日にパラパラと数粒雨が落ちるまで、全く雨量は観測されませんでした。その後、10月29日に約30mm程の雨量が観測されるまで、全く雨は降りませんでした）。

しかし、一部の地域では、今年は穂首いもち病が発生したと発表がありました。穂首いもち病は今まで発生が見られなかったので関係者は心配していますが、専門家はやはり例年にならない高湿度が原因で広まったのではないかと考えており、約千haに発生が観測されたと報道されました。

## ●品質について

反収は低かったのですが、ご飯にして食べたときの新米のかおり・粘り・歯ごたえ・甘みなど、味として感じるものほとんどが日本の国産米と遜色なくできていると思います。しかしこの評価

は私の所のコシヒカリと新しい品種、そして今年からいくつかの地域で意欲ある生産者が栽培した短粒良質米に限っての事です。

今年から食味計による成分分析が簡単にできるようになり、その分析でも日本の国内産米と同様の数値が出ています。それらのデータと栽培方法などとの関連の解析、そして次年度の計画、と今年の冬の勉強も忙しくなります。

## ●食味に影響する「臭い」

収穫時期におこるコメの品質および食味に対する問題点ですが、今年も解決はされませんでした。以前から一部関係者の間で問題視されていた「臭い」の問題です。これは日本でも起こり得ますが、ほとんど解決されていると思います。

こちらの収穫時期の気象条件や刈り取り後の生モミの処理の仕方など、いくつかの原因が絡んで最悪の場合は強い発酵臭を発生し、ご飯として食べる事ができなくなってしまうます。今年のコメにも残念ながらこの発酵臭が一部に発生しています。9月になり、収穫とその後の対応を計画していたとき、すでに予想できていたのです。悪い予想が的中してしまいました。

順を追って説明すると次の様になります。

①湿度が例年より高く推移していた↓刈り取り時のモミ水分がいつもより高そうである。

②乾いた暑い風が吹く様な気圧配置になかなかならなかった↓未熟粒の水分が高いまま収穫される可能性が高い。

③高い気温が続いた↓モミの発酵が進みやすい。

④作付け面積の増加で刈り取り時期が集中し、乾燥作業が間に合わなくなる↓生モミでの放置時間が長くなる。

⑤生産面積の増加と倉庫の収容能力の関係で、早めに精米（製品）出荷を開始した↓テンパリングが不十分な乾燥むらのコメが出回る。

このようなコメの品質上悪影響を及ぼす事態が重なってしまったため、一部で発酵臭のあるコメができてしまいました。日本でもコンバインで収穫した生モミは4〜5時間以内に通風・攪拌を開始し、乾燥作業を始めるのが鉄則になっているはずですが、これをしないと収穫時のモミ水分や気温によっては発酵が始まり臭いが出てきます。

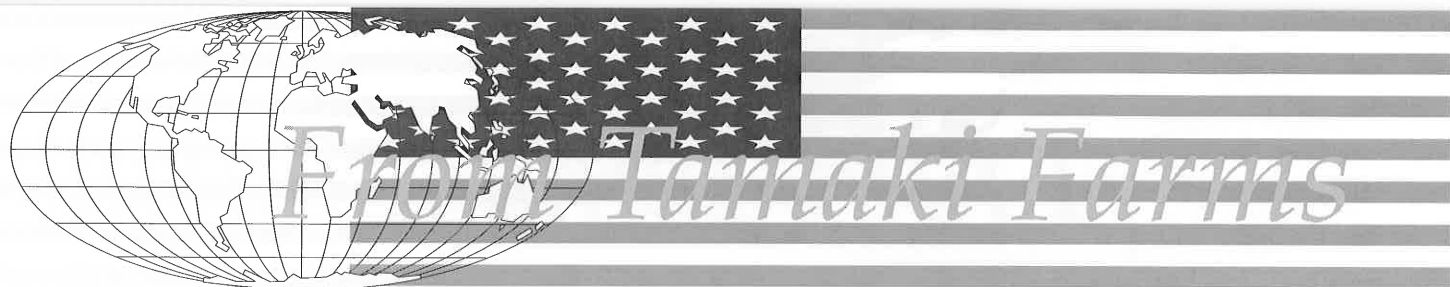
例年は、特に未熟粒の多い品種を早めに収穫したモミにこのようなことがおこっていたのですが、今年はいつもと違った気象パターンであったことよって、収穫時期が的確に対応できなかったものに発生しました。今後の大きな課題です。

## ●価格と収支決算

我々の短粒種も販売単価は確定しておらず、収支決算するには時期が早すぎるのですが、おおよそ次表のような数字になるのではないかと考えられます。生産費を少しは削減することができましたが、販売単価が下がりそうなので純益は昨年より減少します。

しかしコメ生産に関する政府補助金が、今年は一農場当たり平均約3万ドルほど支給されていますので、その額がそのまま処分所得になります。私の所は作付け面積は80haですが、飛行機作業や収穫作業は委託に出していますので、施肥作業や水管理などの肥培管理を主とした私の労働時間は、10a当たり1時間にもなりません。結果として時間当たりの労働報酬は高いものになるのですが、実労働時間が少ないため絶対額が低いのはやむを得ないところです。

つまり、平均的なコメ生産農家は、100ha程度の稲作だけではとても生活を維持するだけの収



### 短粒良質米の生産費の概算 ('96)

費目	\$/acre	%
種苗費	25.00	3.0
播種準備作業費	40.00	4.9
水路整備費	0.00	0.0
水利費	50.00	6.1
肥料費	40.00	4.9
農薬費	90.00	11.0
散布作業費	20.00	2.4
収穫作業費	80.00	9.8
乾燥・貯蔵費	42.00	5.1
修繕費	4.07	0.5
燃料費	5.07	0.6
資材費	1.82	0.2
農具費	35.25	4.3
運搬費	11.00	1.3
販売費	4.44	0.5
事務消耗品費	16.45	2.0
保険料	14.47	1.8
租税公課	57.21	7.0
雇用労働費	52.00	6.3
減価償却費	22.33	2.7
支払地代	200.00	24.4
その他費用	9.11	1.1
合計	820.22	100.0

※acre (1-カ)、1acre=40a

人が得られないと言えます。従って麦やコーンなどの穀物やトマトなどの野菜類を組み合わせた複合経営か、別な仕事を持ちながらの兼業農家として、経営を維持することになります。

### ●新米の顔ぶれ

さて、販売ですが今年も短粒良質米（コシヒカリ・あきたこまち）を使用した高級米と、中粒種（M401など）を使用した新しいブランドがいくつか登場しました。

私も各社の新米がどの程度のもなのか知っていたため、スーパーで購入し分析をしました。

袋を開けてみると、予想通り若干の臭いが出ているものもあつたり、非常にきれいに精米し粒の揃ったものもありましたが、短粒種の選別の悪さが目立ちました。中粒種の最大2倍の値段の開きのある短粒種も、見た目では良くな、特に日本の米粒を見慣れている私には残念に思えました。次に食味計にかけ、蛋白質とアミロースの含有量の比較をしてみました。

食味の総合点での比較ではなく、単純に成分の比較をしたところ、短粒良質米とM401の違いははっきりと現れ、各社のブランド米もどのような品種を用いたか、ほぼ見当がつくくらいはつき

りとした傾向が見られ、実におもしろい結果となりました。

これから、実際に炊飯しての試験をしますが、サンプルの数が多いため時間をかけてじっくりとしていきます。結果は次号の楽しみにとっておきましょう。

このような事をしていっているのはカリフォルニアのコメ業界の中でもごく限られた人のみです。より競争力のあるコメ販売を目指す一部精米会社が細かく分析を行っているはずですが、生産者の段階では残念ながら私だけのようです。

私も今年の反省と来年の計画のため、そして販売のためにデータの積み重ねを開始しようなわけです。自らの生産したコメの力（実力）を知り、競争するコメの実力を測ることによって、より競争力のあるコメの生産に進めるからです。

しかし、この様な調査・検査は始まったばかりで、特に食味に影響するファクターが多いため、整理に頭を悩ませているのも事実です。そして販売のための価格の組立作業と続きます。特に自分のコメのコストをしつかりつかむことは勿論ですが、市場で予想される評価と他社のコメの店頭価格を見て考えます。このようなことをいくつかの主だった市場で繰り返すことによって、しつかりしたターゲットが決まると思っています。

### ●日本からの輸出

日本からの輸出が開始されました。自分のコメを市場に出すことによってその実力を測ることができるようから大変良いことだと思えます。

こちらの消費者にとっては選択の幅が広がりますが、価格的にはこちらのコメと比較するとかなり割高になってしまう場合もあり、事業として採算を考えると大きな疑

問符がついてしまいます。

こちらのスーパーでは1kg当たり約130円で「ご飯」として食べられるコメが買えます。それに対し日本からのものは運賃、卸・小売のごく普通のマージンを含めるとかるく5〜6倍になってしまいうでしょうが、味にはこれだけの差はないと思えます。そこをどのようにお客さんにお金を出してもらおうのか非常に興味があります。

私の経験から言えることは、日本人に限らずコメを「ご飯」として食べる人は、日本の美味しいとされるコメに限りなく近いものを好みますし、日本で生産された本場に美味しい米が世界中で求められていることは事実です。しかし現状はそこそこ食べられるカリフォルニア産の良質米が、そこそこの価格で販売されています。

そこに本物と称するものが5〜6倍の価格で登場するわけです。事業的には採算がとて合わないのですが、それよりも別の意味での効果があるのではないかと考えます。今まで鎖国状態だった日本の稲作が「井の中の蛙」に収まらないで、外に向けても積極的に動く可能性があることを知る意味ではとても良いことだと思えます。

今後どのように展開するのか応援しつつ楽しみにしています。日本のコメの実力が問われているとも言えるでしょう。



収穫量は期待外れとなった今年の稲